

技訓練も課されている。医師は専門にかかわらず70歳まで災害時出動義務を負い、65歳までは10年毎に12日間の災害出動訓練と7日間の災害医学卒後教育を受ける。非常時には医師全員に被災者診療義務が課せられ、地区診療所は災害時においても第1次診療機関として稼働し救急医療を担当するとともに、重症患者をこれ以上増加させて医療システムに過負荷をかけぬよう、老人介護・在宅看護に対しても平常時以上の手厚い診療を行なう。全国一律に標準化された方法でトリアージ訓練を受けた医師達は、災害発生現場において最低限の救急救命処置を行なうと同時に、患者の重症度と緊急度を即座に判定して病院搬送優先度を決定しつつ、国民全員がその意味を熟知している赤・黄・緑・黒のトリアージ・タグを患者の首にかけてゆく。各病院長には広範な非常時裁量権が与えられており、当該地域への交通・通信が途絶したときには中央の指揮を待つことなく病院長独自の判断で非常事態体制を発令できる。このように核戦争時のみならず自然災害時にも組織的に国民の生命と健康を守ってゆくスウェーデンの市民防衛体制から我々が学ぶべきことは多い。

3) 長岡市医師会の震災時医療救護対策

齋藤 良司(長岡市医師会)

長岡市の防災計画にもとずき、震度5強以上の地震発生時の第1局面(地震発生後48時間)に対する長岡市医師会の医療救護対策について述べた。救護本部および救護所(市内30カ所)への医師の派遣、看護要員の確保、連絡網の整備、トリアージの実施要領などについて検討し、その結果を震災時医療救護計画第1報、第2報としてまとめ、更に地震発生時の医師の初動マニュアルを作成して全会員に配布した。又トリアージテレフォンカードも作成している。平成8、9、10年の長岡市防災訓練には、救護所で地域住民の協力による模擬負傷者に対するトリアージと応急処置の訓練を、又10年には救護病院と連携して負傷者の搬送と収容の訓練も行った。これまでに10救護所の訓練に45名の医師と66名の看護婦が参加した。今後も全会員のトリアージ訓練の経験をめざして努力したい。

4) 救護訓練でのトリアージの経験

織田 克彦(織田医院)

平成10年9月6日長岡市地震防災訓練が行なわれ、地区防災センター(関原)にて、①トリアージ、②応急手当、③救護病院との無線交信後、(負傷者の搬送)の訓練を受けた。

構成は、地区担当医師6名、震災ボランティア(看護婦)、市地区活動班(救護担当)、疑似負傷者40名(市民ボランティア)。

1. トリアージ

トリアージとは、限られた人的物的資源の状況下で、最大多数の傷病者に最善の医療を施すため、患者の緊急度と重症度により治療優先度を定めることです。治療不要の軽症者はもちろん、搬送さえ不可能で救命の見込みのない超重症患者には優先権を与えません。少数のスタッフ、限られた医療資材を活用し、救命可能な患者をまず選定し治療します。

トリアージタグは、3枚つづりになっていて下段に○ⅠⅡⅢの切り取り可能なラベルがあり、診断にもとづいて切り取る。

2. トリアージの症度別エリアに負傷者を誘導、応急処置を行った。

3. 搬送

救護無線で搬入病院の受け入れ態勢を問い合わせるトリアージタグⅠⅡ(今回は20名)を搬送した。

今回トリアージを含む救護訓練を受けたのでここに発表報告いたします。

5) 救護訓練でのトリアージについて・・・

一般市民の感想

本間 茂博(長岡市)

トリアージシステムは大変素晴らしい事だと思います。ですが一般市民は「トリアージ」という言葉をほとんど知らないと言っていいと思います。訓練の積み重ねと啓蒙しか方法はないかと思います。二点目は避難所兼救護所迄に負傷者を一般住民がどのように搬送すればよいのかという点が重要な事だと思います。街中は車輛交通止めの箇所が多く、重傷の人を住民レベルでどのようにして運び込むかが今後の課題であろうかと思いました。救護所では数人の医師と看護婦さんが軽傷の人、重傷の人とに分けてトリアージ表を首にかけてもらいました。重傷の人達20名を市のマイクロバスでパトカー先導で日赤に搬送されたわけですが、実際には重傷者が果してマイ